

## 学長室だより

<No. 6>

2008. 4. 28

### 初めての卒業生の旅立ち

2008年3月21日午後、国際教養大学の第1回卒業式が秋田市内のアトリオン音楽ホールで行われました。卒業生64名がガウンと角帽で正装、大学当局の幹部教職員も同様に身を正して式典に臨み、寺田典城・秋田県知事をはじめとする来賓、保護者の方々、教職員、在学生ら多数の出席を得て、本学らしく英語で進行する厳粛な喜びに充ちた式典となりました。卒業生一人ひとりに私が学位記を手渡し（学長への留学レポート/読書レポート提出者には同レポートにサインの上、学位記カバーに挟んで返却）、全員の卒業が認められると、卒業生は本学スクールカラーのモスグリーン色のタッセル（帽子の房飾り）を右から左に回して、学士となったことを確認しました。学長の式辞、寺田知事の祝辞ののちに卒業生を代表して挨拶した福田絵里子さんは、感涙にむせんでいました。GPAによる成績優秀者と学長表彰者が登壇し紹介され、大学からはAIUのシンボルマーク入りのクリスタル記念品が卒業生全員に贈呈されました。卒業祝賀の演奏は、本学特任准教授の渡辺玲子さんによるベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ「クロイツェル」第二楽章でした。式典後の懇親会は会場を秋田ビューホテルに移して行われ、大変な盛会でした。

こうして無事に第1期生64名が巣立って行きましたが、新設大学の学長として最も注意してきた問題は、卒業生の進路についてでした。しかし卒業生全員が1年間の海外留学も含めて優秀な成績を残してくれたお蔭で、就職希望者は全員が就職先を確保し（内定率100%）、進学希望者も国内外の有数の大学院に合格しつつあります。学長として本当に嬉しく、また誇りに思っております。

注目の卒業式の模様は、秋田県のすべてのテレビ局が当日放映し、すべての新聞が翌日報道していました。中には入学時に比べて卒業生の人数が少ないことに触れていたメディアもありましたが、本学のように一年間の海外留学を義務付けているばかりか、完全な Semester制をとり、在学延長希望者も多く、一方で卒業認定の厳格化というこれからの日本の大学の在り方のモデルになりつつある大学としては、このような結果はむしろ積極的に評価すべきものと私は考えています。

なお新しい試みとしての「ギャップイヤー制度」による9月入学の入学試験が3月23日に行われ、5名の合格者が決まりました。

### 入学試験と新入生の入学

大学にとって最重要課題は学生諸君の優秀さですので、本学は開学当初から国公立大学特有の前期・後期日程の方式を離脱し、独自の日程で多様な入学試験を行っています。少

子化の影響などで入学定員が確保できない大学も多いなかで、本学は2008年度も優秀な志願者、本学に是非入学したいという志願者が全国から応募し、受験界では「最難関校」として位置付けられています。このような入試の関門を通過した新入生163名と4月入学の外国人留学生26名、計189名が4月8日にプラザクリプトンでの入学式に臨みました。日本人学生のうち秋田県出身者は約18%でしたが、こうして全国・全世界から秋田の地に優秀な若者が集まってくれることこそ、秋田にとっての活きた資産の増大なのだとは考えています。新入生諸君の活躍と成長を大いに期待しています。

### 新しい図書館棟のオープン

昨秋以来工事が進んでいた新図書館棟が竣工し、去る4月14日にオープンしました。新図書館（館長・勝又美智雄教授）は6本の秋田杉の巨木を立てたシンボルをはじめ、全館が秋田杉をふんだんに使い、階段状の開架書架や梁がむき出しの高い傘型天井から成っていて、この「本のコロセウム」がまさに圧巻です。24時間オープンの図書館には館外の森を眺めながらのくつろぎの場所もあります。

図書館棟には本学ならではの「言語異文化学習センター（Language Development and Intercultural Studies Center）」（センター長・Al Lehner 教授）が従来の「言語独自学習センター（CILL）」を革新した設備や学習室とともに設置され、英語以外の多言語学習ができますので、本学の言語学習環境はさらに充実するものと期待しています。新図書館棟にはさらに183台のコンピューターを備えた大小4つのIT教室（主任・Hongyun Wei 准教授）もできましたので、大いに活用してください。

新図書館棟の総工費は約12億円、設計者は東京の環境デザインと秋田のコスモス設計のJVで、リーダーは日本建築学会の会長も務めた仙田満・東工大名誉教授（放送大学教授）でした。地元のメディアも次々に紹介してくれています。新図書館棟は秋田が全国・全世界に発信する一つの根拠地になることでしょう。

### 厳しい県財政のなかでの大学院の出発

すでに「学長室だより」<No. 5>でもお知らせしましたが、2008年9月から本学では「グローバル・コミュニケーション実践研究科」という日本で初めてのユニークな専門職大学院がスタートします。この大学院は「英語教育実践領域」、「日本語教育実践領域」「発信力実践領域」という3領域から成っていますが、第二期出願期間が6月9日～6月23日ですので、是非本学の学生諸君に多数応募してほしいと思います。グローバル・スタンダードに合わせて選考は書類審査のみの9月入学の大学院です。詳しくはA I U ホームページを参照し、本学のアドミッションズオフィスに尋ねてください。

大学院の設立に関しては今年度事業費として1億3736万円を秋田県からの交付金として別途確保しましたが、県の財政が厳しい折柄ですので、学長として深く感謝しております。そのこともあって、すでに一部の新聞には報じられていましたが、『秋田さきがけ新

報』2008年3月7日付)、2008(平成208)年4月から2年間、理事長・学長の私の給与を20%自主的にカットすることにしました。どうかご理解ください。

理事長／学長 中嶋嶺雄